



大道あや



下妻喜枝



森富茂雄



山口直道



武石トシ子



冨永武



岩本義夫



丸木スマ

もうひとつの生きかた - 自分の時を慈しむ

2022年7月15日[金] - 11月27日[日]

もうひとつの美術館

■開館時間及休館日：10:00～17:00（入場は16:30まで）休館日は毎週月曜日（但し祝月は開館し、翌日は休館）■展示場所：もうひとつの美術館 〒324-0618 栃木県那須郡那珂川町小口1181-2 <http://www.mobmuseum.org> ■主催：認定特定非営利活動法人もうひとつの美術館 tel/fax:0287-92-8088 e-mail:mob@nactv.ne.jp ■協力：嬉々!!CREATIVE ルンビニー園 大道真由美 工房集 鞆の津ミュージアム NPO法人こえとことばとこころの部屋 ココルーム 原爆の図丸木美術館 ヒロシマ・フィールドワーク実行委員会 中川幹朗 森富一三 広島大学平和センター ファンデルドゥース瑠璃 宇都宮大学共同教育学部梶原良成研究室 マ・メゾン光星 ■特別入場料：大人：1,000円 70歳以上・大学生：700円 小中高生・障害者・重度の方付添：500円 障害の有る小中高生：400円 団体20名以上：10%割引（要予約）■助成：とちぎコブNPO法人助成 ■協賛：曹洞宗乾徳寺 鷲子山上神社 富士フィルムビジネスイノベーションジャパン(株) やまなみ工房 (有)メルティングポットデザインショップ (医)ヨゼフ会 馬頭院 (株)ダイサン印刷 (株)ル・リオン ギャラリーバーン 大戸孝男税理士事務所 ■後援：栃木県 栃木県教育委員会 那珂川町 那珂川町教育委員会 NHK宇都宮放送局 下野新聞社 朝日新聞宇都宮総局 毎日新聞宇都宮支局 読売新聞宇都宮支局 東京新聞宇都宮支局 とちぎテレビ 栃木放送 エフエム栃木

自分に与えられた生の時間は誰も知る由がありません。その与えられた生をどう生きるかは人に委ねられています。この展覧会では、歳を重ねたある時からそれまでしてきた事とは異なる表現者としての活動を始め、その後の人生をとっても大切なときとして慈しんできた8名の方々それぞれの深く豊かな表現をご紹介します。人はなぜ“表現”するのでしょうか。“表現”は人の生においてどういう意味を持つのでしょうか。“表現者”は人生の円熟の時に何を伝えたかったのでしょうか。私たちはそこから何かを受け取れるのでしょうか。それらをこの展覧会を通して考えたいと思います。

作家プロフィール

岩本義夫 *Yoshio Iwamoto* 1953年生まれ 嬉々!! CREATIVE (神奈川県平塚市) 所属 2011年58歳の時に知り合いの紹介で行った福祉施設で初めて絵を描いた。金髪の女性しか描きたくないと言い大胆な筆遣いと色遣いで一気に人気作家になった。若いころは父親の左官屋を手伝っていて、その後長く発破屋をやっていた天職だったが、喧嘩別れて辞めてしまったという。たまにべらんめえ調が出るが心優しい兄貴肌。

下妻喜枝 *Kie Shimozuma* 1932年生まれ 1991年59歳の時にルンビニー園(栃木県足利市)に入所して、絵を描き始めた。インパクトのある色と形は、細い身体の見掛けとは違い芯の通った筆捌きから生み出される。まず、画面中央にお気に入りの色が置かれると筆は右へ左へと進む。絵具は暖色系の色を中心に使用することが多く、ほとんど絵具を薄めたりはせず、画面全体を把握しながら作業を進めていた。

大道あや *Aya Daidou* 1909–2010年 広島県の飯室村(現広島市安佐北区)で丸木金助とスマの子として生まれる。結婚し、36歳の時、爆心地から2.5キロの地点で被爆。戦後は家業の花火工場で働く。1956年に母のスマが殺害され、1967年に長男が花火工場で大怪我、翌1968年には夫を爆発事故で失う。悲しみと失意に沈むあやに親友が絵を勧め、1969年60歳から絵を描き始め、1970年に亡き夫を思い描いた「しかけ花火」が女流画家協会に入選。絵本も制作し、2002年の絵本「ヒロシマに原爆がおとされたとき」が最後の創作活動となる。

武石トシ子 *Toshiko Takeishi* 1942年生まれ 工房集(埼玉県川口市)所属 しばらく織りをしていたが、2011年頃より絵を描き始める。最近の作品は自分の好きな有名人名を描き、糊付きフェルトを貼り付け、ボリュームのある作品に取り組んでいる。どこか似ていて、思わず吹き出してしまうような昭和チックな愛くるしさのある作品である。職員と一緒に画像を選ぶ表情はきらきらしている元気な80歳。

富永武 *Takeshi Tominaga* 1948年生まれ 中学卒業後、様々な仕事をして暮らした後、2013年頃より釜ヶ崎で生活。66歳の頃に図書館で読んだ西洋からくり人形の書物に触発され、独学でからくり人形の創作を始めた。自らが飲んだビールの空き缶を切って成形した素材など身近な材料を使いながらも、ユーモラスで複雑な動きを実現するその活動からついた愛称は「からくり博士」。

丸木スマ *Suma Maruki* 1875–1956年 広島県の伴村(現広島市安佐南区)の農家に生まれる。20歳で結婚し、画家の丸木位里をはじめ4人の子を産み育てる。1945年に三滝町(現広島市西区)で被爆。翌年に夫を失い、位里の妻・俊のすすめで、71歳で絵をはじめ。子どものように自由に伸びやかな筆遣いで身近な生きものや野菜、里山の風景などを描いた絵画は、女流画家協会展や院展に入選するなど高く評価され、1956年に没するまでに700点以上の絵画を残した。

森富茂雄 *Shigeo Moritomi* 1929–2021年 15歳の時に広島で被爆し、原爆で家族5人を失う。戦後兄と繊維販売会社を開業。退職後60歳過ぎて、少年の頃に暮らしていた場所や旧中島地区を中心に、記憶にもとづいて、今は平和記念公園となった、失われた爆心地の街並みを克明に再現する鳥瞰図を描き始める。鉛筆で描かれた絵は、証言画集「消えた町 記憶をたどり」(編集:ヒロシマ・フィールドワーク実行委員会)として刊行された。映画「この世界の片隅に」で戦時中の広島を参考にもされた。

山口直道 *Naomichi Yamaguchi* 1954年生まれ 以前から色んなことに興味を持ち、よさこい踊りや太鼓などを行っていた。しかし絵を描くことは全く興味がなかったが、みんなが描いていたことに興味を持ち、60歳位から絵を描き始め、才能が開花した。魚を描いていた時に描いたうろこが気に入り、それから動物にもうろこを描くようになった。

関連イベント

開館21周年記念イベント スペシャルトーク

もうひとつの美術館は2001年8月4日に開館しました。開館21周年記念イベントとして、幼い頃の記憶で絵を描いた出展作家の森富茂雄さんの絵と証言をまとめた本『消えた町 記憶をたどり』を解説すべく、関係者を招き、スペシャルトークを開催致します。(状況により広島大学からのオンライン開催となることがあります。)

話し手: 中川幹朗(編集者)

ファンデルドゥース瑠璃(英訳者 広島大学平和センター 准教授)

梶原紀子(もうひとつの美術館 館長)

開催日: 7月30日[土] 時間: 13:30–15:30

場 所: もうひとつの美術館 ギャラリー&カフェ(管理棟)

参加料: 無料(別途要 当日入場券+ワンドリンク) 定員 30名(要予約)

<冬期休館のお知らせ> 2022年11月28日~2023年3月9日(予定)

ギャラリートーク

毎月第3土曜日に展覧会「もうひとつの生きかた」についてキュレーターが解説します。

開催日: 7/16, 8/20, 9/17, 10/15, 11/20 時間: 14:00–15:00 定員15名(先着順)

場所: もうひとつの美術館 展示室1~4(展示棟) 参加料: 無料(別途要 当日入場券)

もうひとつのくらぶ

毎月第3日曜日(8月、11月は第1日曜日)開催の月1~2回のペースで、のんびり、自由に創作するもいいし、ナビゲーター黒田太郎と一緒に作るも良し、の創作クラブ活動です。

講師: 黒田太郎 1963年生まれ 東京藝術大学美術学部彫刻科卒

開催日: 7/17, 8/7, 8/21, 9/18, 10/16, 11/6, 11/20 時間: 13:30–15:30

場所: ワークショップ室 定員: 15名 要予約(予約開始日はウェブサイトをご覧ください。)

うまくいくことは面白い うまいいかないことも面白い ワクワクすることは面白い

人と違うことは面白い 未体験のことは面白い とにかく面白がってやってみよう

参加料: 1,200円(別途 材料費600円) 入館料: 当日限り1割引

年齢: 原則小学生以上どなたでも(但し低学年、又はじっとしていられない方は付添いが必要)

妻木律子ダンスワークショップ “踊って発見、もうひとりの自分”

開催日: 9月10日(土) 時間: 13:30–15:30 場所: ワークショップ室

講師: 妻木律子 <http://www.tsumaki-ritsuko.org/>

参加料: 大人1,000円+当日入館料(1割引) 子供500円+当日入館料(1割引)

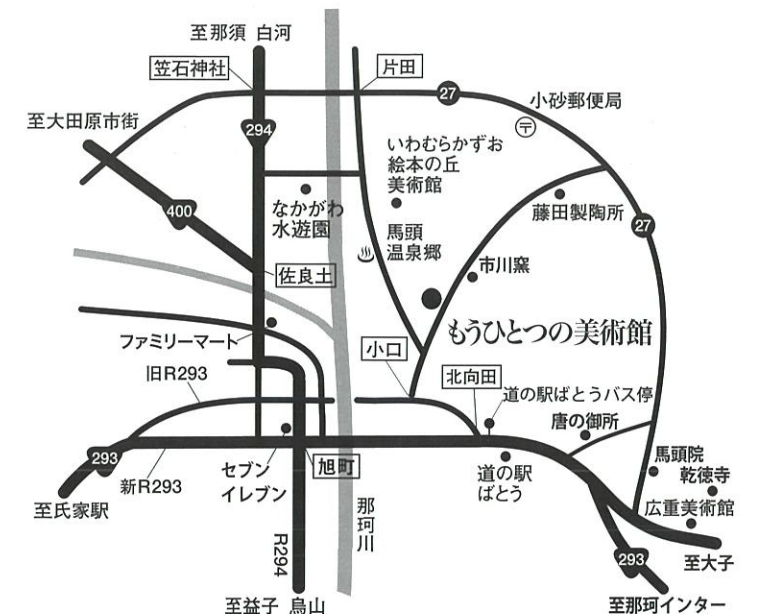
定員: 10名 要予約 *上履きを持参ください。

年齢: 原則小学生以上~大人(但し低学年は大人同伴)

流れ: 前半は自己紹介とウォーミングアップ 後半はグループ分けによる創作と発表

*いただいた個人情報は、本事業に関するご連絡以外には使用いたしません。

*イベントの申込み・お問合せはもうひとつの美術館(0287-92-8088)まで。



JR東北本線氏家駅から関東バス馬頭車庫行き「道の駅ばとう」下車徒歩25分
道の駅ばとうからタクシーで5分 | JR鳥山線鳥山駅から那珂川町コミュニティバス馬頭鳥山線「道の駅ばとう」下車、道の駅ばとうからタクシーで5分
東北自動車道「宇都宮」ICより60分、「矢板」ICより50分
常磐自動車道「那珂」ICより60分